

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：32718

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23320021

研究課題名(和文)古代西アジアの「契約」「誓約」「条約」概念の再考

研究課題名(英文)Reconsideration on the concepts of 'contract', 'oath', and 'treaty' of the texts from ancient Western Asia

研究代表者

岩田 和子(渡辺和子)(IWATA, KAZUKO)

東洋英和女学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：00223397

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,900,000円

研究成果の概要(和文)：古代西アジアの楔形文字文献研究では内容によって、法、宗教、政治の領域に対応するものを「契約」「誓約」「条約」と分類してきたが、当該言語にその区分名はない。本研究ではアッシリア王エサルハドンが前672年に大量発行して各地に配布した『エサルハドン王位継承誓約文書』(ESOD)を、特に近年タイナトの神殿で発見、公刊されたタイナト版を含めて精査し、ESODが条約ではなく、最高神アッシュルが調印した法的形式を持つ誓約文書であり、文書自体が神格化されていたことを示した。さらにユダ王マナセに手渡されたESODがエルサレム神殿に安置された蓋然性が高く、それが後の「契約宗教」成立に影響を与えたことを示唆した。

研究成果の概要(英文)：The studies on the cuneiform texts from ancient Western Asia have been used to classify the related texts in terms of 'contract', 'oath', and 'treaty', according to their respective legal, religious and political contents. In fact, there are no such distinctions in the corresponding ancient languages. The studies concerned focused on Esarhaddon's Succession Oath Documents (ESOD) issued by the Assyrian king, Esarhaddon in 672 BC, and included the study of the Tayinat version of ESOD, recently discovered in a temple in Tayinat and published. This version made it much clearer that the Documents were not treaties but oath documents composed according to a legal form and ratified by the Assyrian supreme god Ashur with his seals, and furthermore that the Documents themselves had been deified. The studies assume that Manasseh of Judah had also enshrined a tablet of ESOD in Jerusalem, which later influenced the reform of Josiah that aimed to establish a religion based on the covenant.

研究分野：宗教学

キーワード：誓約 アッシリア エサルハドン 契約宗教 王位継承 誓約儀礼 古代西アジア 楔形文字文書

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 古代西アジアの楔形文書の研究は、アッシリア学という学問領域において行われてきた。この分野では 19 世紀以降の発掘調査によってヨーロッパにもたらされるようになった楔形文字文書の解読が進み、20 世紀になって研究が本格化した。それらは系統不明のシュメール語、セム系のアッカド語、インド=ヨーロッパ系のヒッタイト語のほか様々な言語であったが、最も多くの分量を占めるのはアッカド語の文書である。それらはおよそ前 3 千年紀半ばから前 1 千年紀までメソポタミアを中心とする古代西アジアの全域で書かれた。

(2) 楔形文字文書は、内容によって法、政治、経済、文学、宗教などの諸分野に属するものが分けられて研究されたが、そのなかに「国際条約」とされる文書群もあった。特に前 16-13 世紀のヒッタイトの王が周囲の施政者と結んだ「条約」というジャンルが設定され、その形式がコロシェツによって「宗主権条約」と「対等条約」に分けられた (Korošec 1931)。その「宗主権条約」がモーセの「シナイ契約」の形式と類似するとしてその契約を 13 世紀に遡らせる学説も出されたため (Mendenhall 1954) 聖書学者の関心を集めた。

前 1 千年紀前半のアッシリアでも、アッシリア王と他の施政者との間に結ばれた「アデー」とよばれる一群の文書があり、「条約」と分類された。そして 1955 年にイラクのニムルド (古代名カルフ) でアッシリア王エサルハドンが前 672 年に発行した「アデー」文書が 9 部発見されたが、それがメディア地方の小領主たちに宛てられた文書であったために、1958 年に「エサルハドン宗主権条約」として公開された (Wiseman 1958)。

(3) 本研究代表者が「エサルハドン宗主権条約」の内容を再検討した結果、それは宗主権条約ではなく、「エサルハドン王位継承誓約文書」と呼ぶべき文書であることを確認し、大英博物館所蔵の未発表断片を加えて再編纂を行った (Watanabe 1987)。しかしこの編纂において提示された条件節における接続法の新解釈を S. パルポラ は受け入れず、ほぼそれ以前の解釈にもどし、文書名も「エサルハドン王位継承条約」とした (Parpola/Watanabe 1988)。

## 2. 研究の目的

(1) 古代西アジアの当該諸言語には存在していない「条約」という語で呼ばれる文書について再検討し、さらに「誓約」と「契約」について考察を加えて、新たなジャンル名を提示すること。

(2) 2009 年にトルコのテル・タイナトで発見され、2012 年に暫定的に公開された「エサル

ハドン王位継承誓約文書」のタイナト版 (Lauinger 2012) を精査し、これまでに確認されているニムルド版とアッシュル版の断片を加えて再編纂を行い、研究を更新する。

## 3. 研究の方法

(1) 大英博物館所蔵のニムルド版を校訂し、「エサルハドン王位継承誓約文書」 (Esarhaddon's Succession Oath Documents = ESOD) のすべての版を用いて総譜翻字を作成することにより、タイナト版による新知見を明確にする。

(2) ESOD の内容から当該の誓約に伴ったと考えられる誓約儀礼を考察する。

(3) 古代西アジアの誓約文書と誓約儀礼について検討してどのような類似、伝統、特異性があるかを研究する。

(4) 国内外の学会で研究成果を発表し、討論、再検討を通して研究を改善する。

## 4. 研究成果

(1) ESOD の構成が判明

テル・タイナト遺跡は、古代において激しい火によって焼かれていたが、タイナト版は表面が下、裏面が上を向いた状態で倒れていた結果、裏面がよく焼かれたことによって、裏面の保存状態がよい。それによってニムルド版のいくつかの不明箇所が明らかになった。とりわけ本文中盤に位置する §35 (397-409 行) がタイナト版によって補完されたために、ESOD 全体の構成が完全に明らかになった。また §35 は「関係節」であり、その内容は重要であるが、構成要素としては不要であることが明らかになった。

ESOD には約 692 行ある。「約」というのは粘土版ごとに少しずつ異なるからである。書かれている事柄を分類すると次の 9 つの要素から成っていることがわかる。

印章の説明 (1 箇所) 表題 (2 箇所)

命令 (2 箇所) 制定事項 (5 箇所)

条件節 (36 箇所) 関係節 (1 箇所)

帰結文 (29 箇所) 第 1 人称の誓約 (1 箇所) 奥付け (1 箇所)

このように 1 箇所だけにまとめて書かれている要素もあれば、多くの箇所に分けて書かれている要素もある。これらの 9 つの要素のうち、ESOD の根幹をなすのは 3 つの要素、すなわち、<命令> と <制定事項>、そして、それらの要素が提示している内容を守ることを、1 人称複数形で誓う <第 1 人称の誓約> である。

ところが最も多くの行数を占めているものは <条件節> であるために、それが ESOD の根幹をなすという誤解もなされてきた (たとえば Wiseman 1958)。しかし <条件節> の役割は、「もしあなた方が万が一にも (<命

令>と<制定事項>で提示されたことに)違反するならば」という条件を示して、次の<帰結文>である呪いの言葉につなげることである。ここで<万が一にも>と補って訳するのは、動詞の接続法が用いられているからである。条件節において、単なる条件、あるいは価値中立的な条件が提示される場合の動詞は直説法であるが、本研究代表者が明らかにしたように(Watanabe 1987)、話者の観点から起こってはならないと判断される条件の提示には接続法が使用される。その意味合いを表現するために日本語では<万が一にも>を付して訳す(渡辺 2013 参照)。

<条件節>に(内容的に)続く<帰結文>には、いわゆる呪いの言葉が集められている。ESOD のなかでは、<条件節>のなかで、いくつもの条件節が重ねられ、すぐには<帰結文>が続かない場合も多いために、ESOD の構成を正しくとらえることは決して簡単ではなかった。また、後半部分の<帰結節>では、冒頭に「同じく」という語が置かれたあとに、呪いの言葉が続く。この「同じく」は、前出の条件節を繰り返すかわりに置かれているため、「同じく」も一つの条件節として数えると、<条件節>の箇所は 36 となる。

#### (2) マス・メディアとしての粘土板文書と「天命の書板」のグローバル化

ティグリス・ユーフラテス河によってできた沖積平野には無尽蔵にあった粘土という素材によって、最大の粘土板文書である ESOD の大量生産が可能になった。その生産には多くの書記が何日も要したと思われるが、誓約者の固有名詞の部分以外はほぼ同文であるために可能になった。

さらに重要であることは、いかにして普遍的な価値観と権威を作り出せるかであった。メソポタミアでは、最高神が定めた「天命」は「天命の書板」に書かれて調印された。さらに毎年の新年祭において「天命」は更新された。ESOD は最高神アッシュルがその「天命の印章」によって調印した「天命の書版」としての性格ももっていた。しかし ESOD は更新されることなく、「未来永劫」有功であり、子子孫孫が永遠に守り続けることが要請させている。このことは、メソポタミアの古い神話的伝統を離れた新しい観念であるが、どの出身者にもわかりやすかった。

(3) 法的文書としての誓約文書と誓約儀礼 誓約も誓約儀礼もそれぞれの宗教的伝統のなかに守られてきたのであり、そのグローバル化を図ることは容易ではなかったはずである。そのためにこそ、アッシリア宮廷は、それまでの蓄積も含めて、周辺世界の価値観を熱心に学んだのではないか。アッシリアが行ってきた、占領地の人々を別の地域に移住させる政策によって、多様な文化がまざる現

象が各地で起きていたとしても、様々な人々がどのような価値観をもち、何を幸福と感じ、何を不幸と感じるかについては調査研究の対象となったと考えられる。人々の幸・不幸を端的に表しているのは、伝統的な祝福と呪いの言葉であった。多くの場合、呪いは祝福の裏返しであり、逆の状況であった。

ESOD は法的文書としての誓約文書であるため、取決め事項(ESOD の場合は<命令>と<制定事項>に相当する)を提示し、それに違反した場合の提示(ESOD では<条件節>)があり、続いて罰則(ESOD では<帰結節>としての呪いの言葉)が示される。そして当事者が調印する。すなわち、このような法的文書の場合には、取決め事項を遵守した場合、特に「祝福」があるとは言われない。

様々な価値観があるからこそ、広い地域から多様な呪いのことばが集められたが、そのなかには人々の生業、暮らしぶり、地方色などを反映しているものも少なくない。しかし、人々にとっての幸せが、健康、命の保証、安寧などにあることは共通している。

#### (4) ESOD の影響

ESOD の粘土板文書は、親アッシリア政策をとっていた当時のユダ王マナセ(在位前 687-642 年)にも手渡されたであろうことは想像に難くない。それはエルサレム神殿に安置されたはずである。マナセの治世の後、アモン(在位前 642-640 年)の短い治世があり、その後王位についたヨシヤ(在位前 640-609 年)は、強大なアッシリアが弱体化してゆくことを目の当たりにする。

アッシリアは、ESOD が発行された年の 60 年後である前 612 年に滅亡したが、それはヨシヤにとって政治的にも宗教的にも独立する好機であった。彼の「ヨシヤ改革」のためには強い精神的支柱を必要であり、その大役は「神殿で発見された契約書/契約の書」(列王記下 22: 8-23: 3)が担った。すなわち、マナセがエルサレム神殿に安置した ESOD の書板を処分するとともに、先祖に与えられていた律法(契約)の書が発見されたとしたのであり、そこに定められていることに立ち返るべきという宗教改革が遂行されたことになる。そして ESOD は「申命記」の作成にも影響を与えたと考えられる。

このように古代西アジアの誓約(文書)が「契約(ベリート)に基づく宗教としての一神教」の成立に深く関わったことから、それらの有機的関係を捉えなおすことが可能となる。

#### <引用文献>

V. Korošec 1931: *Hethitische Staatsverträge zu ihrer juristischen Wertung*, Leipzig.

- J. Lauinger 2012, "Esarhaddon's Succession Treaty at Tell Tayinat: Text and Commentary," *Journal of Cuneiform Studies* 64, 87-123.
- G. E. Mendenhall 1954: "Covenant Forms in Israelite Tradition," *Biblical Archaeologist* 17, 50-76.
- S. Parpola /K. Watanabe 1988: *Neo-Assyrian Treaties and Loyalty Oaths*, State Archives of Assyria (= SAA) 2, Helsinki.
- K. Watanabe 1987: *Die adē-Vereidigung anlässlich der Thronfolgeregelung Asarhaddons, Baghdader Mitteilungen* Beiheft 3, Berlin.
- D. J. Wiseman 1958: "The Vassal-Treaties of Esarhaddon," *Iraq* 20, 1-99, plates 1-53.

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

K. Watanabe 2016: "Innovations in Esarhaddon's Succession Oath Documents Considered from the Viewpoint of the Documents' Structure," *SAA Bulletin* 21, 173-215 (査読有).

渡辺和子 2016: 『エサルハドン王位継承誓約文書』にみる「普遍的」倫理と呪詛」オンラインジャーナル『宗教研究』89巻別冊 49-251。

渡辺和子 2016: 「エサルハドン王位継承誓約文書」にみる編集作業とその意図」『オリエント』58-2, 248-249。

渡辺和子 2015: 「忠誠の誓約文書と契約宗教としての一神教」オンラインジャーナル『宗教研究』88巻別冊 261-262。

渡辺和子 2015: 「エサルハドン王位継承誓約文書」の構成と儀礼」『オリエント』57-2, 114-115。

K. Watanabe 2014, "Esarhaddon's Succession Oath Documents Reconsidered in Light of the Tayinat Version," *Orient* 49, 145-170(査読有)。

渡辺和子 2014: 「エサルハドンの「王位継承誓約文書」新資料からみる契約宗教成立の背景」『オリエント』56-2, 110-111。

渡辺和子 2013: 「エサルハドン王位継承誓約文書」のタイナト版による新知見と再検討 条件節における接続法の用法を中心に」『オリエント』56/1, 55-70 (査読有)

渡辺和子 2013: 「エサルハドンの王位継承誓約文書について」『オリエント』55-2, 100。

[学会発表](計11件)

K. Watanabe, "What are 'Esarhaddon's Succession Oath Documents'?" *Rencontre Assyriologique Internationale* 61, in Geneva, 2015.6.23.

渡辺和子 「エサルハドン王位継承誓約文

書』にみる「普遍的」倫理と呪詛」日本宗教学会第74回学術大会、創価大学2015年9月6日。

渡辺和子 「エサルハドン王位継承誓約文書」にみる編集作業とその意図」日本オリエント学会第57回大会、北海道大学2015年10月18日。

渡辺和子 「忠誠の誓約文書と契約宗教としての一神教」日本宗教学会第73回学術大会、同志社大学2014年9月13日。

渡辺和子 「エサルハドン王位継承誓約文書」の構成と儀礼」日本オリエント学会第56回大会、上智大学2014年10月26日。

K. Watanabe (招待講演) 'Oath and Ritual in Esarhaddon's Succession Oath Documents,' *Asia-Pacific Early Christian Studies Society (APECSS), 9<sup>th</sup> Annual Conference: Life and Death in Early Christianity*, 2014年9月6日、東洋英和女学院大学。

K. Watanabe, "Esarhaddon's Religious Reformation Effected by Means of the 'Succession Oath Documents'", *Rencontre Assyriologique Internationale* 59, 15-19 July 2013/ Ghent), 16 July 2013.

渡辺和子 「エサルハドンの「王位継承誓約文書」新資料からみる契約宗教成立の背景」日本オリエント学会第55回大会、京都外国語大学2013年10月27日。

K. Watanabe (招待講演) "The Oath Documents of Esarhaddon and His Religious Reformation," *Workshop: Assyrian Scribal Art: Inscriptions and Library Texts*, Tsukuba University, May 10, 2012.

渡辺和子 「エサルハドンの「宗教改革」」日本宗教学会第71回学術大会、2012年9月8日、皇學館大学。

渡辺和子 「エサルハドンの王位継承誓約文書について」日本オリエント学会第54回大会、2012年11月25日、東海大学。

[図書](計2件)

渡辺和子 2016: 『エサルハドン王位継承誓約文書の研究』リトン。

渡辺和子 2015: 「エサルハドン王位継承誓約文書」にみる生と死」東洋英和女学院大学死生学研究所編『死生学年報 2015 死後世界と死生観』リトン、105-144頁。

[産業財産権] なし

[その他] なし

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩田 和子 (渡辺和子) (IWATA, Kazuko)  
東洋英和女学院大学・人間科学部・教授  
研究者番号: 00223397